

第3期保土ヶ谷ほとなまちづくり素案への意見募集実施結果

第3期保土ヶ谷ほとなまちづくり（地域福祉保健計画）の策定にあたり、区民の皆さまに素案への意見を募集しました。このたび、実施結果と計画への反映の考え方をまとめましたので御報告いたします。

1 実施概要

(1) 実施期間

平成27年11月18日（水）から平成28年1月8日（金）まで

(2) 周知方法

ア 素案冊子の配架

区役所（福祉保健課、区政推進課等）、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ

イ 素案リーフレットの配布 素案リーフレットの配布総数 約7,500部

自治会町内会（班回覧）、各種会議・催しでの配布、区役所（福祉保健課、区政推進課等）、区社会福祉協議会、地域ケアプラザでの配架

ウ 保土ヶ谷区ホームページ、メールマガジン、広報よこはま保土ヶ谷区版12月号への掲載、関係団体への説明等

2 実施結果

(1) 意見総数

総計 112件

(2) 項目別意見数

項目	意見数
計画全体に関するもの	19件
計画の策定経過等に関するもの	5件
計画の周知に関するもの	9件
計画の推進に関するもの	21件
区全域計画の各テーマに関するもの	58件

(3) 提出された意見とその対応

項目	意見数
計画（素案）にご賛同いただいたもの	18件
意見の趣旨が計画（素案）に含まれているもの	63件
計画に反映するもの	7件
計画の推進の参考とさせていただくもの	9件
その他	15件

3 スケジュール（予定）

3月中旬 計画確定

3月下旬～ リーフレットの各戸配布

5月～ 冊子配布

4 計画に反映させたご意見の内容と対応の考え方

	意見の内容	対応の考え方
1	案「地域の皆を対象に、地域のみならず行政が共同してすすめよう」	ほっとなまちづくりは、区民の皆さんや関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などと連携しながら進める計画であるということを、第1章「2 基本理念」「計画全体で大切にしている視点」の②「地域のみならずすすめていこう」の部分にイラストにて分かりやすく表現します。
2	貧困家庭の子どもたちを孤立させないで、いじめや不登校、学力や進学の問題で地域で支えることができないかと思えます。その辺の記述が少ないように思いました。	第3章「1 見守り・支えあい」「(3) 目指す姿に向けた主な取組」の区社会福祉協議会の取組「孤立した方への支援の仕組みづくり」及び、区役所の取組「区域ネットワークのつなぎ役として」に、生活困窮・引きこもり・いじめ等の例示を追加します。
3	小中学生のいじめの問題では、この冊子では「いじめ」という言葉が見当たりませんでした。一言でも良いから記載し、大人たちがいじめの問題について問題意識を持っているということを書いていただければと思います。	第2章「1 統計で見る保土ヶ谷」の「地域における子育て支援の重要性」の中で、いじめについて追記します。 第3章「1 見守り・支えあい」「(3) 目指す姿に向けた主な取組」の「地域の中での取組（共助）」に記載している「気付いてつなげる」の事例を、友達関係に悩みを持った子どものものに修正します。 また、同章の区役所の取組「区域ネットワークのつなぎ役として」にも、いじめを例示として追加します。
4	旭区の地域福祉保健計画では、引きこもりなど青少年の問題について1ページ取り上げているが、保土ヶ谷区ではそれが残念。	区全域計画では対象者別ではなく、取組のねらい（テーマ）を切り口に構成しているため、それぞれの記載には、青少年を含めた全ての皆さんが対象者に含まれています。 より分かりやすくお伝えするため、第3章「1 見守り・支えあい」「(1) これまでの取組」の「つながりづくり」に引きこもりの青少年の例示と、分かりやすいイラストを追加します。 また、同章「(3) 目指す姿に向けた主な取組」の区社会福祉協議会の取組「孤立した方への支援の仕組みづくり」にも、引きこもりを例示として追加します。
5	防犯防災の観点の取り組みも盛り込んでいただければと思う。	防災については、地域の支えあいが重要であることや、地域のつながりづくりのきっかけにもなることから、「(コラム) 災害に強いまちづくりと“保土ヶ谷ほっとなまちづくり”」で取り上げているほか、例示でも複数個所で取り上げています。 防犯の取組については、第3章「1 見守り・支えあい」「(1) これまでの取組」の一例に防犯パトロールを追記します。また、同章「(2) 目指す姿」の「1 一人ひとりが地域のことを知り、隣近所とつながりがある。」の説明文に「安心で」という文言を追記します。
6	子ども虐待に関しては、第3章「1 見守り・支えあい」「区全域を対象に行われている主な取組や制度」に虐待防止連絡会の記載があるが、所在や関わってくれている人などが分かりにくい。虐待を受けている子どもたちや虐待してしまう親はどこへ連絡したらよいのかが分かるように。	第3章「1 見守り・支えあい」「区全域を対象に行われている主な取組や制度」の虐待防止連絡会に関する説明の表現を修正します。
7	「区全域計画の3つのテーマ」のマークが右上に凡例が記載されていても分かりにくい。	各地区別計画の凡例に記載しているマークが、ほっとなまちづくりの基本理念の実現に向けたテーマであることを記載します。

【別紙】すべてのご意見の内容と対応の考え方

(1) 計画全体に関するもの (19 件)

	意見の内容	対応の考え方
1	現在、そしてこれからを考えた時に必要と思われる視点がはっきりと提示されている。	御賛同いただき、ありがとうございます。 今後も保土ケ谷ほっとなまちづくりの推進に御協力をお願いします。
2	高齢化が進む社会地域にとって参考となる案であると思う。	
3	計画に具体性があり良かった。	
4	高齢化に伴う地域社会福祉計画は具体的でわかりやすいと思います。	
5	いろいろな世代にわたって考えているのがいいですね。	
6	大変わかりやすい内容です。地域の活動の参考になります。	
7	すばらしいです。	
8	すばらしかった。	
9	地域を良くしていきたい人はいるのに、なかなかつなげれないという現状があるので基本理念はとてもいいと思う。	
10	印象として、地域ごとの独自性、個性を生かし、総花的にならないように考えていただけたら良いと感じました。	各地区の住民の皆様が中心となって策定・推進する地区別計画を、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所がサポートしていくことで、地域の特色を大切にしていきます。
11	抽象的な言葉が並んでいる。「支え」「安心」「つながり」「助け合い」具体的な言葉で記述できないか。	第3章「区全域計画」では、取組の参考としていただけるよう、多くの事例とイラストを盛り込んでいます。
12	漠然としていて焦点がわかりにくい。	
13	案「3つのテーマを実現目指すためにも、地域のみならず行政と共同して進めることを理念とします」	第1章「2 基本理念」の「計画全体で大切にする視点」や、第5章「取組の進め方」の中で、区民の皆様や関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが連携しながら計画を進めるということを記載しています。
14	保土ケ谷区の特徴、人口の推移や構成などが前段にあるとなおいいと感じた。	第2章「地域福祉保健を取り巻く状況」にて、統計データを掲載し、保土ケ谷区の特徴や人口の推移等を分析しています。
15	素晴らしい計画が着々と進んでいるようですが、取組、進め方のところを見るとすべての関連セクションが並列ですべて入っている。これをやると行政や区社協が最後のとりまとめのところまで苦勞するのではないのでしょうか。	様々な分野の方に関わっていただくことにより、様々なつながりをつくって孤立を防いだり、外出や健康づくりのきっかけをつくらしたりすることを大切に考えています。
16	今後少子高齢化をどんなふうと考えていくか？	保土ケ谷ほっとなまちづくりは、子ども、高齢者、障害や病気がある方もない方も、地域の皆さんが対象であり、担い手にもなる取組です。それぞれができることをできる範囲で、お互いさまの関係で進めていきます。 なお、第3章には、テーマごとに事例を盛り込むと共に「地域を対象に行われている主な取組や制度」を記載しています。今後も区民の皆様や地域の状況を踏まえ、効果的な取組や施策を検討してきます。
17	高齢化に対する具体的な対策を考えて欲しい。	

18	案「地域の皆を対象に、地域のみんなと行政が共同してすすめよう」（再掲）	ほつとなまちづくりは、区民の皆さんや関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などと連携しながら進める計画であるということを、第1章「2 基本理念」 「計画全体で大切にする視点」の②「地域のみんなが進めよう」の部分にイラストにて分かりやすく表現します。
19	「区全域計画の3つのテーマ」のマークが右上に凡例が記載されていても分かりにくい。（再掲）	各地区別計画の凡例で記載しているマークが、ほつとなまちづくりの基本理念の実現に向けたテーマであることを記載します。

(2) 計画の策定経過等に関するもの（5件）

	意見の内容	対応の考え方
1	ほつとなまちづくり素案策定に際し、ワールドカフェの実施はとてもいいアイデアだと思いました。	今後も様々な工夫をしながら、区民の皆様の声を大切に、保土ヶ谷ほつとなまちづくりを推進していきます。
2	各部会の検討会はすばらしい。	
3	全戸配布すべき。	自治会町内会等の御協力により、リーフレットとして各戸配付します。
4	小中高校などで素案を話し合うといい。	児童生徒の皆さんが、計画に触れたり、地域とのつながりを持つ機会が増えたりするよう検討していきます。
5	素案作りでの早い時期でのアンケートなら有効であった。	無作為抽出の区民アンケートやワークショップ、保土ヶ谷ほつとなまちづくり推進会議・部会等で区民の皆様の声を伺いながら素案としてまとめました。意見募集はその後の実施となりましたが、いただいた御意見を大切に、計画を確定させていきます。

(3) 計画の周知に関するもの（9件）

	意見の内容	対応の考え方
1	とても素晴らしいものができていると思いますが、私たち子育ての世代だとこんなものが出来ているということすら知らないという現状があります。特に子育て世代の方々にどうやって届けていけばよいか。いろいろな広報媒体を使って発信していただければと思います。	第3章「3 担い手づくり・情報」 「(2) 目指す姿」では、「様々な媒体を使って、求める人に合わせた情報が発信されている。」という項目を記載しています。若い方や子育て世代の皆様にも、保土ヶ谷ほつとなまちづくりの基本理念や取組を伝えていけるよう取り組んでいきます。
2	もっと若い方にも知って欲しいと思います。	
3	地区社協のメンバーだけが活動していて、外部の人には何も伝わっていない。もっとオープンにして地域に広げるようなほつとなまちづくりにした方がよい。	第2章において、計画全体で大切にする視点として、「地域のみんなを対象に／地域のみんなが進めよう」と掲げています。第3章には、活動に多くの方が関わられるための工夫や、地域の皆様に周知していくための方法の例を記載しています。
4	町内会の回覧板回してほしい。	取組状況を周知することは重要と考えています。第5章「取組の進め方」の中で、ほつとなまちづくりフォーラムでの活動発表や活動事例集の作成の予定を記載しています。その他、ホームページや広報よこはまなどの媒体を活用して、保土ヶ谷ほつとなまちづくりを広げていきます。
5	保土ヶ谷ほつと活動をもっと知らせて欲しい。	

6	町内会の定例会や地区のほつとなまちづくり懇談会、そういったところで、うちの地区はこういった計画でやっている、またこういう専門機関があって相談できるし、こういう制度が整っているということを、私たちも区民の一人として伝えていく必要があると感じました。	<p>計画全体で大切にする視点として、「地域のみんなを対象に／地域のみんなで進めよう」と掲げており、そのためにも、住民の皆様に分かりやすく伝えていくことが重要と考えています。</p> <p>第3章では、「3 担い手づくり・情報」のテーマの中で必要な方に情報が届くよう事例を挙げています。</p> <p>事務局である区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザも情報伝達に努めていきますが、地域の皆様の御協力もぜひお願いします。</p>
7	これから、それぞれの地区、まちで行政に任せるだけでなく、我々がそれぞれの立場で伝えていくのが役割でもあるなど感じているところです。	
8	内容をもっと自分のものにして町内会の方々へ周知に取り組むことが大事であると感じました。	
9	1人でも多くの方に活動への理解を深めていきたいと思います。	

(4) 計画の推進に関するもの (21件)

	意見の内容	対応の考え方
1	第1～第2期の実績を踏まえその成果も立派でしたのでさらに発展されると思います。	<p>御賛同いただき、ありがとうございます。今後も保土ヶ谷ほつとなまちづくりの推進に御協力をお願いします。</p>
2	ますます高齢者が増えるので対応や計画も大変だと思いますが、とても必要なことです。	
3	時代に合った計画だと思っており、更に推進されることを望みます。	
4	外出するきっかけを作るのは大変ですので助かると思います。	
5	見守り支えあい担い手づくりなど大変良い計画です。ぜひ達成させてほしいです。	
6	皆が支えあいながら保土ヶ谷区がまとまると素晴らしいと思います。	
7	素案が少しずつでも皆さんの目に留まり実施されて進むことを心から願っています。	<p>計画の策定はゴールではなく、スタートと考えています。第5章「取組の進め方」に記載の体制で、毎年振り返りを行いながら取組を進めます。</p>
8	計画案を実行してほしい。	
9	机上のプランに終わることなく、区民の為の生きた施策になることを願います。	
10	それぞれの活動の充実が求められ、単にお題目だけであってはならない。	
11	言葉より実行をしてみることです。	
12	スローガンも大事だが実際に実行できそうなことに絞り込む必要がある。	<p>地域の一人ひとりそれぞれの立場や状況によって、取り組める内容は様々なため、第3章において、テーマごとの取組事例を幅広く紹介しています。</p>
13	自治会長だけでなく、地域で何らかの肩書を持った人は、有事だけでなく平常時からやらなければならない。そうしたことを、冊子の中にも文言としてきっちりと記載しておいた方が良いと思います。	
14	各地区の活動の様子を他の地区でも知ることができると参考になりますね。	<p>各地区の計画も、地区別計画の中でお示ししています。また、第5章「2 地区別計画の推進体制・振り返り」では、各地区の取組状況を様々な機会を活用して区全体で共有していくこととしています。地区支援チームも参考になる情報の提供に努めます。</p>

15	集まって話し合い、意見を述べ1つになることが必要と考え感じている。	第5章「2 地区別計画の推進体制・振り返り」では、関係者が定期的集まり情報共有・検討をすることが重要であることを記載しています。その手法の1つとして、ワールドカフェ方式も有効と考えています。
16	多くの人々の意見を取り入れられるようワールドカフェなど取り入れていく。	
17	絵に描いた餅は食べられない。予算はどうするのか、あるのかないのかよくわからない。	関係団体・機関では、それぞれ必要な予算組みをしています。地区別計画の推進にあたっては、地区ごとに状況は異なりますが、地区社会福祉協議会の賛助会費の活用のほか、補助金制度の活用等が考えられます。地区支援チームに御相談ください。
18	皆で盛り上げていきたい。	今後も保土ヶ谷ほっとなまちづくりの推進に御協力をお願いします。
19	地区の手伝いは、出来る事に参加したいと思えます。	
20	誰もが明るい方向を目指して歩んでいるはずが、転んで立ち上がれなくなったり道に迷っている人にまた明るい方へ進んでいけるように手を貸してあげられたら、自分の道もよりはっきりと見えてくる気がします。誰もが、は無理でも一人でも多くの方が明るい毎日を過ごせることを願っております。	
21	皆で助け合い楽しいまちづくりをして暮らしていきますように。	

(5) 区全域計画のテーマに関するもの (58件)

	意見の内容	対応の考え方
1	両親が働く子供たちと高齢者がふれあえる、さみしくない環境づくりもあればと思います。	第2章において、計画全体で大切にする視点として、「地域のみんなを対象に」と掲げています。 第3章では、3つのテーマそれぞれの中で、これまで地域との接点が少なかった方が地域参加していただける工夫を紹介しています。
2	全世代を対象にした活動がないように思う。苦しんでいる若者、親子、子育てに悩んでいる方もいると思う。	
3	70才以上の食事会。子育てを支える。	
4	地域のつながり世代のつながりのためにも高齢者だけでなくあらゆる世代の人達に声掛けして欲しい。	
5	地域のみんなで進めよう。全世代が参加する方法を示してほしい。	
6	少子高齢化に伴い、子供、高齢化に視点を当てたイベントづくり等を考えてほしい。	
7	もっと若い世代の人たちの参加を工夫してほしい。	
8	子どもも楽しめるイベントを多くしてほしい。	
9	だれでも気軽に参加できるカフェのような場所があるとよいと思う。	
10	誰もが気楽に接することができるようなムード作り。	
11	光の当たらない方を具体的に日の当たる場所にどう引き出せるか進めて欲しい。	
12	見守り、支え合いが大切だと思います。充実して欲しいです。	

13	「支えあう」ということを別の言い方をすると「孤立させない」というところになります。そこにウェットをかけた記述があってもよいのではないかと思います。	孤立の防止については、第3章冒頭の「見守り・支えあい」のテーマで説明すると共に、地域とのつながりが無く孤立している方もいることを踏まえて、取組の事例を挙げています。
14	高齢化が急速に進み商店街がなくなり、買い物難民がふえているのが実情です。若い人はインターネットで買い物したりスーパーでのまとめ買いもできますが高齢者はできません。高齢者にやさしい町になって欲しいです。	第3章「1 見守り・支えあい」 「(2) 目指す姿」の中で、「4 困ったときや災害時にも支えあい、助けあいができる」として、地域の中でお互いさまに助けあえる関係づくりを目指しています。
15	自分が住む地域では、災害が起きた時に地域の町内会長さんが地域の障がい者を把握していないという現状があります。地域の中で、どこに障がいのある方が住まわれているかを把握していないと、災害が起きた時にどなたが障がいのある方を支えるのでしょうか。そういうネットワークが必要だと思います。	また、災害時に自力で避難することが困難な要援護者を支援するためには、日頃からの関係づくりが重要と考えており、「(コラム) 災害に強いまちづくりと“保土ヶ谷ほっとなまちづくり”」に記載しています。災害時要援護者を事前に把握し、日頃の関係づくりを行う自治会町内会が増えるよう、区役所では、周知や取組支援を行います。
16	情報共有方式について制度はあるが、実施している町内会は少ないのが現状です。関心が薄いのか、PRが足りないのか。横浜市全体でも言えることだと思います。せつかく情報共有方式で平常時から準備をしておく制度があっても、準備が進んでいないというのが現状です。	
17	異常気象や災害の時、地区ごとに助け合っていくことが望ましいと思います。	
18	子どももなく老夫婦で日常生活に大変不便を抱えている人がいることも念頭に置いてほしい。もう少し細かな支援を考えて欲しい。	生活に不便を抱えている方への支援については、第3章「1 見守り・支えあい」において地域の住民同士での支えあいの例を記載しています。また、「(3) 目指す姿に向けた主な取組」「地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の取組(公助)」においても公的機関としての役割を記載しています。
19	防災について、独居暮らしの内容がなかった。	第3章「1 見守り・支えあい」 「(2) 目指す姿」の「3 病気や障害などへの理解を広げ地域とのつながりを持つことができる。」「4 困った時や災害時にも支えあい、助けあいができる」では、一人暮らしの高齢者や、障害や病気のある方などへの理解・支えあいを進めることを目標としています。
20	目の見えない方や要介護者とのつながりや支えあいの在り方検討が必要だと思った。	なお、保土ヶ谷ほっとなまちづくりでは、取組のねらい(テーマ)を切り口に構成しているため、個別の対象者を挙げて記載していない場合でも、地域のすべての方が対象となります。
21	地域交流、認知症への対応。	
22	認知症の人は1000万人と言われています。高齢化によって増々増加しますので地域的に予防や介護が必要になります。盛り込んではどうでしょうか。	
23	近所の普段の付き合い、助け合いこそ福祉の原点と思う。	第3章「1 見守り・支えあい」 「(2) 目指す姿」の第一歩として、「1 一人ひとりが地域のことを知り、隣近所とつながりがある」ことを位置付けています。
24	見守りでは近所の方への声掛けが大切だと思う。誘ってあげることがよい。	
25	地区センターやコミュニティーが近くになくバスの便もよくない。足が遠のく。結果行事は不参加になり繋がり支え合いに迷惑をかけてしまうのではないかと？	地域のつながりづくりは、日頃からの隣近所とのつながりや声かけなどからも始められるものと考えています。
26	案「公的サービスの周知徹底を図って困って	第3章「1 見守り・支えあい」 「(3) 目指

	いる人が気軽にサービスを受けられるようにします」	す姿に向けた主な取組」の「地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の取組（公助）」において、孤立した方への支援の仕組み作りやセーフティネット・区域ネットワークのつなぎ役としての役割を記載しています。
27	案「一人で悩みを抱え込まないように行政に相談窓口などを設けます」	
28	配食をやっているところが多いようですが、食中毒等があった時どうするのか？配食でなくても高齢者とのコミュニケーションはとれると思うが。	外出が難しい高齢者等の見守りの機会として、配食が役立っている事例があります。第3章「2 いきいき健康」「(3) 目指す姿に向けた主な取組」において、区役所の取組として、食中毒予防など衛生管理の支援を記載しています。
29	特に高齢者に対しては健康寿命を延ばす対策を考えて欲しい。	第3章「2 いきいき健康」では、様々な取組例を記載しています。なお、人と人がつながりを持つこと自体が本人の健康につながるという点でも、つながり・支えあいの取組を進めていきます。
30	歴史めぐりウォーキング。	今後の取組推進の参考とさせていただきます。
31	スポーツダンスを普及してほしい。スポーツセンターで夜間でなく昼間の時間に。	
32	どこでも一番の問題点である担い手の充実。トップの方の若返りを何とか考えなくてはいけない。	第3章「2 担い手づくり・情報」の「(2) 目指す姿」「(3) 目指す姿に向けた主な取組」において、新たな担い手発掘の工夫や後継者の育成について、具体例を交えて記載しています。
33	異世代の担い手が必要だと思うが、社会全体が高齢化している為、担い手も高齢化しており難しい。	
34	真剣に取り組んでいることは素晴らしいと思います。どこの地域にもボランティア活動年齢が上がっているようです。若い人がもっと参加してくれるといいと思います。	
35	若い方の担い手が足りないので心配です。	
36	民生委員が少ない中での配食・昼食会・健康体操などいろいろなことをやっていくことがとても大変なことだと思います。もっと何か工夫をしてほしい。	
37	地域のメンバーだけで様々な取組をしているのが大変だなと思います。	
38	ボランティアが増えることを願います。	
39	支援している人も「助けて」の声をだすこと。負担が大きくなっていて皆が気を付ける必要がある。	
40	ボランティアをこまめに募集するのは周知にもなるというのが良い考えだと思いました。	
41	20年前に比べ、地域ケアプラザのボランティアが高齢のためやめる人が多くなり、今年は5人になってしまった。	
42	とにかく老人問題に目が行きますが、現役の人共働きの家庭フリーター等の方々はめいっばいだと思う。元気な老人はこれらを応援していく仕組み作りが必要だと思う。	第2章「地域福祉保健を取り巻く状況」「1 統計で見る保土ヶ谷」では、元気な高齢者のを増やし、その力を生かしていくことが大切と分析しています。一人ひとりのできることを生かして地域で活躍いただけるような仕組みづくりに取り組みます。
43	ボランティアを増やしつつもボランティアに	第3章「2 担い手づくり・情報」「(2) 目

	負担をかけすぎないという点。	指す姿」「(3) 目指す姿に向けた主な取組」では、活動が続けていくための工夫を、事例として紹介しています。
44	担い手があまり負担に感じては長続きしない。月に1回くらいならやりやすい。	
45	地区社協のスタッフが高齢化しているため、次の担い手を育てる(参加してもらう) ことが必要であるが、地区社協がどんな活動をしているのか、どういうことをしてほしいのか等簡単なわかりやすい概要をまとめたものを60代定年を迎える方に配布するなどして、気軽に参加しやすい工夫をすることが大切かと思えます。	第3章「3 担い手づくり・情報」(2) 目指す姿」では、新しい担い手を発掘するためのきっかけづくりと、求める人に合わせた情報発信の工夫を記載しています。
46	地区社協の担い手を発掘するためのPRが不足しているのではないのでしょうか。	
47	定年前の人が今後の役割を担える周知、指導活動。	
48	担い手づくり、情報について幅広いお手伝いが出来るような情報の輪づくりに期待したいと思います。	第3章「3 担い手づくり・情報」では、「(2) 目指す姿」として、「6 必要な人に情報が届くように、人から人へとクチコミで情報が伝わっている。」と記載しています。関係団体・機関の情報共有はもちろん重要ですが、地域の身近な情報の輪も非常に有効と考えています。御協力をお願いします。
49	マンションが多くなったようです。その部分も何か考案が欲しく感じております。	第3章「3 担い手づくり・情報」(3) 目指す姿に向けた主な取組」において、区役所として、自治会町内会への加入促進に取り組むことを記載しています。
50	老人会に入らない人が多数いますが、どうしたら増やすことができるのでしょうか。	第3章の各テーマに掲載している、新たな参加者を増やす工夫例は、老人クラブなどの活動団体・グループに関しても参考にさせていただきます。
51	貧困家庭の子どもたちを孤立させないで、いじめや不登校、学力や進学の問題で地域で支えることができないかと思えます。その辺の記述が少ないように思いました。(再掲)	第3章「1 見守り・支えあい」(3) 目指す姿に向けた主な取組」の区社会福祉協議会の取組「孤立した方への支援の仕組みづくり」及び、区役所の取組「区域ネットワークのつなぎ役として」に、生活困窮・引きこもり・いじめ等の例示を追加します。
52	小中学生のいじめの問題では、この冊子では「いじめ」という言葉が見当たりませんでした。一言でも良いから記載し、大人たちがいじめの問題について問題意識を持っているということを書いていただければと思います。(再掲)	第2章「1 統計で見える保土ヶ谷」の「地域における子育て支援の重要性」の中で、いじめについて追記します。 第3章「1 見守り・支えあい」(3) 目指す姿に向けた主な取組」の「地域の中での取組(共助)」に記載している「気付いてつなげる」の事例を、友達関係に悩みを持った子どもものに修正します。 また、同章の区役所の取組「区域ネットワークのつなぎ役として」にも、いじめを例示として追加します。
53	旭区の地域福祉保健計画では、引きこもりなど青少年の問題について1ページ取り上げているが、保土ヶ谷区ではそれが残念。(再掲)	区全域計画では対象者別ではなく、取組のねらい(テーマ)を切り口に構成しているため、それぞれの記載には、青少年を含めた全ての皆さんが対象者に含まれています。 より分かりやすくお伝えするため、第3章「1 見守り・支えあい」(1) これまでの取組」の「つながりづくり」に引きこもりの青

		<p>少年の例示と、分かりやすいイラストを追加します。</p> <p>また、同章「(3) 目指す姿に向けた主な取組」の区社会福祉協議会の取組「孤立した方への支援の仕組みづくり」にも、引きこもりを例示として追加します。</p>
54	防犯防災の観点の取り組みも盛り込んでいただければと思う。(再掲)	<p>防災については、地域の支えあいが重要であることや、地域のつながりづくりのきっかけにもなることから、「(コラム) 災害に強いまちづくりと“保土ヶ谷ほっとなまちづくり”」で取り上げているほか、例示でも複数個所で取り上げています。</p> <p>防犯の取組については、第3章「1 見守り・支えあい」「(1) これまでの取組」の一例に防犯パトロールを追記します。また、同章「(2) 目指す姿」の「1 一人ひとりが地域のことを知り、隣近所とつながりがある。」の説明文に「安心で」という文言を追記します。</p>
55	こども虐待に関しては、第3章「1 見守り・支えあい」「区全域を対象に行われている主な取組や制度」に虐待防止連絡会の記載があるが、所在や関わってくれている人などが分かりにくい。虐待を受けている子どもたちや虐待してしまう親はどこへ連絡したらよいのかが分かるとよい。(再掲)	<p>第3章「1 見守り・支えあい」「区全域を対象に行われている主な取組や制度」の虐待防止連絡会に関する説明の表現を修正します。</p>
56	案「空き家が増えています。荒れ放題に放置されている空き家周辺の住民の不安を解決するため、『空き家相談窓口』を行政に設けて、気軽に相談できるようにします」	<p>横浜市では空家等対策の推進に関する特別措置法の公布に伴い、区役所に窓口を設け相談の対応を行っています。</p> <p>現在「横浜市空家等対策計画」の策定中であり、横浜市として取り組み姿勢や対策を定めているところです。</p>
57	区内は急傾ガケが多いのでくまなく調査し安全マップを作ることを願います。	<p>保土ヶ谷区では今年度末に、急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域等を含む防災マップの更新を予定しており、このマップの周知・活用を進めていきます。</p> <p>保土ヶ谷ほっとなまちづくりは、地域のつながり・支えあいの推進を目指す計画であるため、急傾斜地対策に関して計画への記載はしていません。</p>
58	案「保土ヶ谷区は危険な急傾斜地がたくさんあり、昨年の集中豪雨や台風による被害も生じています。安全安心な保土ヶ谷を作るためにも、急傾斜地対策を計画的に進めるとともに、保土ヶ谷区・横浜市の独自の施策の充実に努力すめるとともに、神奈川県、国に対しても予算措置など一層の充実に図るようはたらきかけます」	